

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

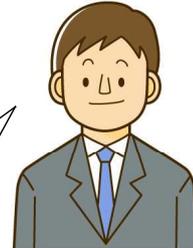
<その2>

「特別の教科 道徳」（道徳科）の完全実施に向けた、改訂のポイント（その2）です。



「道徳科の内容」は、どのようなものになるのですか？

では、「道徳科の内容」について説明します。次の点が変わりました。



道徳科の内容

まず、「内容項目のまとまりを示す四つの視点」を見比べてみましょう。



「内容項目のまとまりを示す四つの視点」の新旧比較

従前 道徳の時間の内容	道徳科の内容
1 主として自分自身に関する事	A 主として自分自身に関する事
2 主として <u>他の人</u> とのかかわりに関すること	B 主として <u>人</u> との関わりに関する事
3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関する事
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	D 主として <u>生命</u> や自然、崇高なものとの関わりに関する事

四つの視点が、1・2・3・4からA・B・C・Dに変わりました。

また、その順序は、児童生徒にとっての対象の広がり即して整理され、従前の3と4が入れ替わりました。

記述にも変更点（下線部分）があります。

Bの視点では、「他の人」が「人」に変わりました。自己と人との関わりをより一体的なものとして捉えて望ましい人間関係の構築を図る指導を充実させてください。

Dの視点には、「生命」という言葉が加わりました。「生命の尊さ」をより意識した指導を行ってください。



小学校第1学年及び第2学年の内容項目

小学校第1学年及び第2学年(19)	
A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断, 自律, 自由と責任	(1) よいことと悪いこととの区別をし, よいと思うことを進んで行うこと。
正直, 誠実	(2) うそをついたりごまかしをしたりしないで, 素直に伸び伸びと生活すること。
節度, 節制	(3) 健康や安全に気を付け, 物や金銭を大切に, 身の回りを整え, わがままをしないで, 規則正しい生活をする <u>こと</u> 。
個性の伸長	(4) 自分の特徴に気付く <u>こと</u> 。
希望と勇氣, 努力と強い意志	(5) 自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行う <u>こと</u> 。
真理の探究	
B 主として人との関わりに関すること	
親切, 思いやり	(6) 身近にいる人に温かい心で接し, 親切に <u>すること</u> 。
感謝	(7) 家族など日頃世話になっている人々に感謝する <u>こと</u> 。
礼儀	(8) 気持ちのよい挨拶, 言葉遣い, 動作などに心掛けて, 明るく接する <u>こと</u> 。
友情, 信頼	(9) 友達と仲よくし, 助け合う <u>こと</u> 。
相互理解, 寛容	
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	(10) 約束やきまりを守り, みんなが使う物を大切に <u>すること</u> 。
公正, 公平, 社会正義	(11) 自分の好き嫌いとらわれないで接する <u>こと</u> 。
勤労, 公共の精神	(12) 働くことのよさを <u>知り</u> , みんなのために働く <u>こと</u> 。
家族愛, 家庭生活の充実	(13) 父母, 祖父母を敬愛し, 進んで家の手伝いなどをして, 家族の役に立つ <u>こと</u> 。
よりよい学校生活, 集団生活の充実	(14) 先生を敬愛し, 学校の人々に親しんで, 学級や学校の生活を楽しくする <u>こと</u> 。
伝統と文化の尊重, 国や郷土を愛する態度	(15) 我が国や郷土の文化と生活に親しみ, 愛着をもつ <u>こと</u> 。
国際理解, 国際親善	(16) 他国の人々や文化に親しむ <u>こと</u> 。
D 主として生命や自然, 崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	(17) 生きることのすばらしさを知り, 生命を大切に <u>すること</u> 。
自然愛護	(18) 身近な自然に親しみ, 動植物に優しい心で接する <u>こと</u> 。
感動, 畏敬の念	(19) 美しいものに触れ, すがすがしい心をもつ <u>こと</u> 。
よりよく生きる喜び	

※ 下線部分は、新たな文言の追加や変更点です。

次に、各学年段階の内容項目をくわしく見てみましょう。



各内容項目には、小学校から中学校までの内容の体系性を高めるとともに、構成やねらいを分かりやすく示して指導の効果を上げるために、その内容を端的に表す言葉が付記されました。

小学校第1・2学年では、新たに3つの内容項目の追加があり、項目数は19になりました。

A-(4)は、自分のよさを生かし伸ばすことを重視しての追加です。

C-(11)は、差別や偏見をもつことなく集団や社会との関わりをもてるようにするために加わりました。

C-(16)は、これからのグローバル化に対応する素地を培うために加わりました。

移行期間において改正後の学習指導要領に基づき教育課程を編成する際には、上記の変更点に十分留意して計画を作成してください。



他の学年段階については、次号で取り上げます。